実践報告

下仁田の大地　3つの魅力
―ボトムアップでつくったジオパークの新テーマとストーリー―

Three charming aspects of the land in Shimonita
―New theme and story for the Shimonita Geopark created with bottom-up processes―

ジオパーク下仁田協議会テーマストーリー検討委員会*・ガイド部会**
Theme Story Committee and Guide Section,Geopark Shimonita Council

はじめに

2022年，下仁田ジオパークのテーマ・ストーリーが新しく決まった．下仁田ジオパークは，下仁田町の範囲をエリアとするジオパークで，2011年9月に誕生した．準備段階の2010年9月には，「多様な大地の変動から古代人の足音まで」というテーマが設定された．そして，見どころとして，「1　海底から陸へ『付加体』の形成，2　移動する大地『跡倉クリッペ』，3　日本列島の背骨『中央構造線』と多彩な岩石，4　火山活動『本宿二重陥没』，5　鏑川が造った段丘と古代人の住処，6　変動する大地の上に暮らす人々の歴史」という6つのストーリーが設定された．

下仁田ジオパークは，2015年11月，2017年11月，そして2021年11月と3回の再認定審査を経ている．これまでの審査の中で，テーマが下仁田全体の魅力をあらわしていない，「大地の成り立ち」「生態系」「人の営み」の関係性が紐解けるようなストーリーを工夫する必要があることが課題とされていた．これをうけて，ジオパーク下仁田協議会の学術部会では，2018年4月に「テーマストーリー検討委員会」を設置した．構成員は群馬県立自然史博物館，下仁田町自然史館，下仁田自然学校の5名の地質学関連のメンバーである．

検討委員会では，4回の会議とメールでの相談などを通じて，新たなテーマ・ストーリーの骨子を作成した．その過程で，テーマなどの検討は専門家だけで決めるのでなく，町の人たちと一緒に討論してつくっていくことが重要だという認識で一致した．2021年からは，協議会の中のガイド部会メンバーにも相談の輪をひろげ，具体的なテーマやストーリーの内容や文言について，相互の討論を重ねて，意見のキャッチボールをしながらまとめるにいたった．

新テーマとストーリー

下仁田ジオパークの新しくできたテーマは，「下仁田の大地，3つの魅力　大地の変動が残した宝箱～ねぎとこんにゃくを育む川と台地～」のキャッチフレーズのもとで，「1　“根なし山”をつくった海から陸への大変動，2　太平洋と日本海を分けた古

2022年3月14日受付．2022年3月18日受理．
＊　高桒祐司，菅原久誠，保科　裕，関谷友彦，中村由克
＊＊大河原順次郎，森川恵美子，神戸百合子，高橋敏博，高橋真理子，黒澤雅史，堀口和利，松原信也，津金澤英美，中村由克，林　通典，赤岡　明，関谷友彦
文責：中村由克　〒370-2611　群馬県甘楽郡下仁田町青倉158-1　下仁田町自然史館
Shimonita Museum of Natural History, 158-1 Aokura, Shimonita-machi, Kanra-gun, Gunma, 370-2611 Japan

い火山地帯，3　東西の文化とモノの交差点」である．

下仁田には古生代ペルム紀から中生代，新生代古第三紀，新第三紀，第四紀にまたがる各時代の地質体があり，クッリペや中央構造線，新第三紀の火山性陥没盆地などの地質現象などが観察でき，箱庭的に多様な地質体が位置することが特筆される．明治以降の研究は数多くある地域である．さらに，長い大地の歴史の上に立ち，生活を営んだ人類の歴史も旧石器時代から続き，とくに近世以降は街道の町としても存在した．このような長くて幅広い大地の歴史と人々の暮らしは，簡潔な言葉でまとめることは容易ではない．新テーマ・ストーリーづくりは，このような下仁田の状況を把握・共有するところからスタートした．

1の「“根なし山”をつくった海から陸への大変動」は，古生代，中生代から古第三紀までの地質体をあつかっている．大洋底でのマグマの噴出により形成された岩石，大洋底や大陸縁辺に堆積して形成された地層などの岩石が複雑な構造をして接しており，日本列島の土台を形成した当時のなぞが秘められていることを表現した．秩父帯および跡倉ナップの岩がつくる険しい山地のふもとの水はけのよい痩せた土地では，コンニャク栽培の適地となった．産出する良質の石灰岩は，昭和初期より炭酸カルシウムの生産に利用された．

2の「太平洋と日本海を分けた古い火山地帯」は，新第三紀中新世から鮮新世にかけて存在した本宿を中心とする火山岩類をあつかっている．上信国境付近に位置する荒船山，妙義山などは，古い時代の火山活動の跡で，深くまで侵食されて火山体の構造が観察できる．なかでも，妙義山の石門などの奇岩が多くあることが特筆される．また，荒船風穴は，荒船山に関連する独立した貫入岩体の崩壊によって生じた風穴を絹産業に利用した産業遺産である．

3の「東西の文化とモノの交差点」は，鏑川の谷地形を古来より交通路としてきた人類の歴史があることを扱った．ここでは中央構造線が東西方向に位置し，ほぼそれに沿って鏑川が西から東に流れて谷をつくっている．「下仁田の道」とされる街道は，中山道の脇往還であるだけでなく，下仁田から4方向に分かれて山間地にむかう道で，下仁田は谷口集落としての存在であった．山から盆地にながれる河川の水力がこんにゃく精粉業を支えた．下仁田，南牧のこんにゃくは，かつて全国的な生産中心地であり，ねぎは江戸・明治期からの名産品となっていた．

さらに，テーマ1は主に青岩公園と南牧川エリア，2は主に鏑川エリア，3は馬山からまちなかのエリアに，それぞれテーマと対象エリアが対応していることが特徴である．テーマを選択して，見学エリアを決めるという利用が期待される．

下仁田ジオパークのテーマの課題となっていたこと

2011年のジオパーク発足時から下仁田ジオパークの見どころは，6項目の見どころが提示されてもりだくさんであった．重要な地質資産が数多くあり，「重要なものがいっぱいある……」と説明されてきたが，町民はおろか，協議会の関係者でさえも「なにが重要で見どころなのか」という質問にはすぐに一言で簡潔に答えにくい状態であった．ジオパークの旧パンフレットでは，A2版の大きな地図の中に24か所のジオサイトや見学地が個別に写真入りで解説されている．それらを通した全体的な意味合いや関連性については触れられてなく，全体像を理解するには不親切であった．町民のだれもが下仁田ジオパークの魅力について語れるようにするために，下仁田の大地の魅力を分析してわかりやすい形にまとめることが課題であった．

また，地質の見どころが多くストレートにあげられているが，専門的な言葉が多く一般になじみのないことや地形，文化，エコの面が弱いという欠点も指摘されていた．

町の人たちの言葉で大地の魅力を語る

2021年7月からは，専門家と町住民とで共同のテーマ・ストーリーづくりがはじまった．テーマ検討委員会でつくった原案をたたき台として，ガイド

第1表　下仁田ジオパークのテーマ・ストーリー（2022年策定）

テーマ1	“根なし山”をつくった海から陸への大変動	青岩公園と南牧川エリア
まち中から見える山並みは，昔話に描かれたようなポコポコした形です．日本の地質100選にも選ばれた「根なし山（クリッペ）」は，アジア大陸東縁にあった岩石が太平洋側にのし上げて移動したものです．この周辺には海洋でできた良質の石灰岩があり，おおいに利用されました．また，山沿いの石混じりの土地は，こんにゃく栽培に利用されました．		
テーマ2	太平洋と日本海を分けた古い火山地帯	鏑川エリア
荒船山は群馬，長野県境に位置する古い火山です．川は山をはさんで東側は太平洋へ，西側は日本海にそそぎます．妙義山も古い火山で，石門などの奇岩が多く見られ，国指定の名勝で日本三大奇勝の1つとされています．荒船風穴は，夏でも冷風が吹き出す地形を利用した絹産業の世界文化遺産で，近くの神津牧場は，地すべりによる広大な平坦面を利用した「日本最古の洋式牧場」です．		
テーマ3	東西の文化とモノの交差点	馬山～まちなかエリア
下仁田町は東西に流れる鏑川の谷あいにあります．武州・上州と信州を結ぶ「下仁田の道」は，石器時代には信州産黒曜石の通り道でした．近世以降には信州の米，南牧の砥石や下仁田名産の麻，絹，紙，石灰も運ばれました．特産のねぎ・こんにゃくは，往来の人びとに愛されてきました．		

部会で項目ごとに趣旨を説明し，内容の質問をうけながら，何がテーマとなり，どんな言葉がいいかを話し合った．大勢のメンバーで議論するので，なんども同じ言葉を直しては修正し，という過程を繰り返した．専門的な言葉をあまり使わないで，地域の特質と魅力をわかりやすい言葉で表現するというのは至難の業で，成案をえるまでには長い時間を要した．2021年11月の再認定審査までには，新パンフレット案という形で，テーマ・ストーリーを中心とした手作りパンフレットが作成できた．

さらに，下仁田ジオパーク全体のキャッチフレーズ案をガイド部会員に募集し討論した．この討論は大いに盛り上がり，会議後にもガイド部会の中核をなす下仁田ジオパークの会関係者有志のライングループを通じて多くの提案が相次ぎ，最終的には26案になった．この中から「大地の変動が残した宝箱～ねぎとこんにゃくを育む川と台地～」が決定した．ジオパーク協議会の席上では，ねぎとこんにゃくの言葉はどうしても入った方がいいという意見が決定の後押しをした．

再審査の現地調査の折には，新旧の両方のパンフレットを提示し，現地調査員にも下仁田ジオパークのテーマ・ストーリーの扱い方へのアドバイスをいただいた．このように大勢のメンバーでつくった新テーマ・ストーリーは，下仁田ジオパークの再認定審査では，「この4年間でジオパークの魅力を3つのテーマに整理」したことが大きく評価いただいた．

第1図　下仁田ジオパークのパンフレット
左：従来のパンフレット
中：再審査時の手作りパンフレット
右：新しいテーマ・ストーリパンフレット
（校正中のもの）

再審査後，現地調査員の助言も踏まえて，テーマ・ストーリーを説明したパンフレットづくりに着手し，年度内に印刷される．2022年3月時点では旧パンフレットの残部がまだあり，かつ，新パンフレットでは地図を一新するための準備が不十分であったので，これからの1年は新パンフレットと旧パンフレットの残部を両方使い，その間に地図を一新した新版のパンフレットの原稿づくりをおこなう予定である．

まとめ

新テーマ・ストーリーの特徴は，第1に下仁田ジオパークの魅力を3つにまとめたことである．第2に3つのテーマは，おおむね町内の3エリアに一致する．そして，第3に大地（地質・地形）と人の暮らしが一体化したテーマである点である．さらに，第4にこれらのテーマとストーリーの内容と文章は，長い時間をかけて専門家と町住民が協働してまとめたことが特筆される．